

会 議 録

会議の名称	平成27年度 第3回公共施設再配置・複合施設機能検討懇談会
開催日時	平成27年11月11日(水) 午後 1時30分から 午後 3時45分まで
開催場所	本庄市役所 職員厚生室
出席者	(アドバイザー) 小松幸夫教授 (委員) 柿沼 光男委員、山口 康裕委員、齋藤 康雄委員 河田 重次委員、樋口 頼正委員、明堂 純子委員 谷田 裕之委員、種村 朋文委員、江原 貞治委員 小賀野 昇委員、茅原 博委員、青木 光蔵委員 (事務局) 奥田 謁夫副市長、今井企画財政部長、 山下部企画課長、武政企画課施設調整係長、飯島主事
欠席者	田中 輝好委員、今井 勝子委員、須藤 成光委員、鈴木 隆治委員、 吉田 豊彦委員、永尾 路子委員、渡邊 孝広委員、内田 睦夫委員、 清水 由紀夫委員
議題 (次第)	(1) 公共施設等総合管理計画(インフラ編)(案)について
配付資料	○事前配布資料 ・次第 ・資料1: 本庄市公共施設等総合管理計画(インフラ編)(案) ○当日資料 ・参考資料1: 本庄市インフラ白書(案) ・参考資料2: 懇談会ワークショップ 検討結果まとめ
その他特記事項	
主管課	企画財政部企画課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
1. 開 会	
事務局	<p>本日は、皆様にはお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>本日、司会を務めさせていただきます、企画課長の山下部と申します。</p> <p>はじめにご連絡ですが、アドバイザーを依頼している早稲田大学の小松先生がＪＲ高崎線の事故によるダイヤの乱れの影響で到着が遅れております。到着次第ご参加いただきたいと思います。</p> <p>それでは、欠席のご連絡をいただいた委員以外の皆様はお揃いですので始めさせていただきます。</p> <p>まず、懇談会は原則として公開とさせていただきます。懇談会の会議録につきましては、発言者の氏名を伏せた形でホームページにて公開させていただきます。</p> <p>また、懇談会の傍聴につきまして、申し入れを受ける形で進めさせていただいておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。本日は１名の傍聴者がございます。これより、傍聴人の入室を許可いたしますので、ご了承いただきますようお願いいたします。</p> <p style="padding-left: 2em;">(傍聴人の入室)</p> <p style="padding-left: 2em;">(配布資料の確認)</p> <p>それでは、次第に基づきまして、平成 27 年度第 3 回公共施設再配置・複合施設機能検討懇談会を始めさせていただきます。</p>
2. あいさつ	
副市長	<p>お忙しいところお集まりいただきまことにありがとうございます。本庄市副市長の奥田でございます。</p> <p>これまで、いわゆるハコモノという施設について、どうしていくべきか、皆様から貴重なご意見をいただき、有意義なご議論を賜りました。</p> <p>今年度は同じ施設であり、普段私たちも使っているのに見えにくい、縁の下の力持ち的な道路や橋梁、上下水道など、いわゆるインフラについて、ご議論いただいております。</p> <p>なかなか道路がどれくらいあるかなど、掴みづらい所もありますので、前半部分で市の所有するインフラについて、その量やいつ頃造られたのかなどについてご説明させていただき、今後これらをどのように管理していくのかなどについて方針的なもの（案）をお示しいたしますので、皆様から忌憚なきご意見をいただきたいと思いますと考えております。</p> <p>お忙しいところお集まりいただいたことに感謝申し上げますご挨拶とさせていただきます。</p>

3. 意見交換	
(1) 公共施設等総合管理計画（インフラ編）（案）について	
事務局	本来であれば、ここでアドバイザーの小松先生に議事進行をお願いする所ですが、先生が到着するまで大変恐縮ですが、事務局の方で進行させていただきます。
(資料1、参考資料1について事務局より説明)	
アドバイザー	電車の遅延により遅くなりました。申し訳ありません。 早速ですが、資料1、P.5～P.6の施設の老朽化状況のグラフについて、橋梁のグラフの注釈、竣工年度不明とはどの程度あるのでしょうか。
事務局	1/4程度竣工年度が不明な橋梁が存在します。
アドバイザー	竣工年度不明な橋梁はこのグラフに入っていないので、老朽化の状況はさらに厳しいということに留意が必要です。
アドバイザー	上水道のグラフの注釈、「昭和55年度に旧児玉町において一括管理となった簡易水道延長について、当該年度に整備されたものとする」とありますが、実際には昭和55年度以前に大半が敷設されていると考えられます。 昭和55年度以前に敷設したものもすべて昭和55年度に集計してしまうと、更新費用推計が甘くなってしまわないでしょうか。
事務局	旧児玉町の簡易水道について、昭和55年度に敷設したものとして、上水道の更新費用推計を行うと、参考資料1のP.23図4-6のとおり平成32年度に昭和55年度分を更新する費用が積算され、今後30年間の将来更新費には簡易水道分も含まれることとなります。 また、旧児玉町の簡易水道については既に更新を行っている部分もあり、現状で昭和55年度に一括管理となった当時のまま残っているものが約120km程度あるような状況です。
アドバイザー	今後30年間の将来更新費に含まれているとしても、本来であればもっと早い時期に旧児玉町の簡易水道の更新をするべき年度が来ることが想定されます。 実際は平成32年度に約120kmを一度に更新することなどはできないので、前の年度に均したほうがより実質に近くなると思います。
委員	私も先生の意見に賛成です。下水道は昭和50年代に多く敷設していますが、私は当時仕事で下水道に関わっており、その当時でさえ古く危険ではないかと思える管が存在しました。 点検も実際に掘り返すわけにもいかず、正確にできないのではと思いますので、前倒しての更新も安全面からみると検討するべきかと思います。 上水道の旧児玉町の簡易水道も実際には昭和55年度よりも古い管が多いのであれば、なるべく前の年度に均しておく方がいいと思います。
事務局	確かに、昭和55年度以前に敷設したものまで全てを昭和55年度に敷設したものとすると、更新時期という点では正確さにかけるとも考えます。

	<p>旧児玉町の簡易水道については昭和 55 年度を含む複数年度に約 120 km を均すなどの方法を検討します。</p>
アドバイザー	<p>P.16 のコスト縮減に向けた取組イメージについて、本当にこの取組内容で間に合うのかという心配があります。</p> <p>まず、維持管理・運営費について直近で 14 億円かかっているものを今後も同額で維持するといった考え方ですが、今後の長寿命化の実施や、予防保全へ移行していくためには、今以上に維持管理費などはかけなくてはならないのではないかと思います。</p> <p>これまでしっかりと維持管理や修繕等をやっていたのならばいいかと思いますが、これまでは事後保全的な修繕を行っている場合が大半かと思しますので、予防保全への移行を進める中で、効率化だけでその増加分をカバーできるのかどうかと思います。</p>
事務局	<p>長寿命化の実施や、予防保全の取組を進めると、従来の事後保全よりも維持管理等にかかる費用は多くなる傾向です。</p> <p>P.16 では現状の投資額とその内訳（更新費・新設分）に対して、将来推計における更新費とのギャップを確認いただき、コスト縮減の必要性和目標設定の考え方をまとめた図となっているので、維持管理・運営費については一定としています。</p>
アドバイザー	<p>市の取組の方向としては、更新費を削減するためには長寿命化や維持管理・運営の効率化などあらゆるコスト縮減の方策に取組むとありますが、長寿命化や予防保全の実施のためには、維持管理費はやはり増加するようになっています。</p> <p>また、維持管理費を将来的に増やして確保するという考え方を示すことで、維持管理の取組をこれまでの事後保全的な修繕から予防保全へと変えていくというイメージづくりにもなるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘いただいた点について、再度検討いたします。</p>
委員	<p>ハコモノの場合、例えば 3 つのものを 1 つにすることで面積を削減できますが、インフラの場合、例えば橋を使わなくするという事は難しいと思います。また、人口が減っている中で、インフラは下水道などをまだ広げているような状況で、今でさえ維持が手一杯な状況であれば、これ以上増やすことが必要なのかどうかとも思います。このような状況の中では、今後はコンパクトシティという考え方も必要ではないかと思います。</p> <p>例えば、街中でも場所によっては空洞化が進んでいますが、インフラは既に整備されており、これをやめるわけにはいかないと思います。逆に市街地は郊外に広がり続けている状況で、維持管理していかななくてはならないインフラが増え続けているのであれば、効率化やコスト縮減等を考えるともっと街を集約できないかと思います。</p> <p>また、長寿命化するといっても、なんでも長寿命化するのでしょうか。例</p>

	<p>えばほとんど使われていない道路や橋梁なども全て長寿命化の対象とするのでしょうか。または、使われていない施設は長寿命化しないことや、修繕は最小限にするなど整理は考えていますでしょうか。道路が傷んでも、交通量の少ない箇所は穴埋め程度の最小限の修繕にするなど、状況に応じて対応の仕方は変えるべきかと思います。</p>
事務局	<p>まず、コンパクトシティという考え方は今後のインフラ等の整備において考慮すべきものと考えております。</p> <p>また、今後のインフラの整備については、基本方針の③と取組方針の⑥で「施設機能の適正化」として、今後の人口構造や社会環境等を考慮しながら必要性の検討や場合によっては施設量の削減を行う旨を記載しています。</p> <p>長寿命化の対象や修繕の内容等の整理については、施設ごとの特性や現状の健全性等に応じて最も効果のある方法を実施できるよう、検討していきたいと考えております。</p>
アドバイザー	<p>施設機能の適正化という考え方を実践するには、本来は人口を動かしていかないといけないと考えますが、それを言い出すと非常に影響が大きいと思いますが、将来的には避けては通れないことだと思います。人口が減っていく中でまちづくりをどうするか必ず議論する必要があります。</p>
委員	<p>市街地が拡散することでインフラの量も費用も増大している中、もう一度街中に集約する必要があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>自治会としての意見を申し上げますと、郊外に住んでいる者としては、道路も水道も橋も生活に必要であり、いまさら街に住めといわれても非常に難しいのではないかと思います。</p> <p>実際には住んでいる人達に対していきなりそういったことをすることはないとと思いますが。</p>
アドバイザー	<p>もちろん今すぐを実施するような内容ではありません。ですが、今後将来的には必ず検討が必要になることだと思います。</p> <p>例を挙げますと、先日長野県の人口 800 人程度の村を訪れた際に、その村の役場の人に将来的にまちづくりをどうするのかといった問いかけをした所、現在は 70 歳前後の方がまだ元気で村のことをいろいろとやってくれているが、私たちの年代が最後で次の世代の人達は村にほとんどいない状況の中、今後村をたたむ事を本当に考える時期がくるかもしれないとおっしゃっていました。日本全国で今後このような事態が実際に発生すると考えられます。</p> <p>どこかで街自体を縮小していくことを考えないと人口が減少する中、うまく成り立たなくなると考えられます。今後を見据えて 40 年～50 年といったスパンでどうすべきか考えるべきだと思います。</p>
委員	<p>郊外だけでなく、本庄の街中も場所によっては、住居であった場所に駐車場になったり、空き家が増えたり街の空洞化がすごい勢いで進んでいます。</p>

	<p>例えばそういった場所を市が住宅地として買い取ることや整備することなどを検討されてはどうでしょうか。そうすれば空洞化したところにも人で埋まってくるのではないのでしょうか。土地が空いておりインフラが整備されている街中を活用することが必要となるのではないのでしょうか。</p> <p>今後1、2年の話であればこういった話はしないのですが、30年～40年先のこととして考えるのであれば、まちの活性化や存続のために、そういった計画的な考え方を盛り込んだほうが良いと思います。</p>
アドバイザー	<p>市としては30年～40年後の市の将来像を持ち、これに対してインフラをどう整備、維持管理していくのかといった検討をするべきだと思います。</p>
アドバイザー	<p>国道や県道の橋など国や県との連携は考えていないのでしょうか。例えば点検などの際に作業上の効率を考えると連携をするべきかと思います。</p> <p>二重行政ではないが、市民から見るととても効率が悪いように思えます。</p>
事務局	<p>現状ですと、管理主体ごとに維持管理・運営を行っている状況ですが、この公共施設等総合管理計画の策定自体が国からの要請でもあるので、今後国や県との連携も必要になると考えています。</p>
委員	<p>インフラ施設の長寿命化とはどういった内容でしょうか。</p>
事務局	<p>例えば橋梁については、劣化が進んで修繕に多額の費用が必要となってしまうことや修繕自体ができなくなってしまうような状態になる前に定期点検等により状況を把握し、必要な修繕を行うことで橋梁自体の寿命を延ばすという考え方です。</p> <p>市としては橋梁については平成24年度に長寿命化計画を策定し、予防保全に取り組んでおり、計画策定にあたり実施した点検結果を基に優先度を設定した上で、優先度の高い施設から順に修繕等を行っています。これにより通常の耐用年数60年のところ、目標耐用年数を100年としています。</p>
委員	<p>上水道や下水道の点検についてはどのように考えるのでしょうか。点検が正確にできなければ今後突然壊れる様な自体も発生しかねないと思います。</p>
アドバイザー	<p>予算的な措置をキチンとしておき、計画的な更新や修繕を進めることも大切だと思います。</p> <p>点検方法については専門家が検討していると思いますので、技術の進歩により、今後より正確な把握ができるようになれば効率的で計画的な維持管理ができると思います。</p> <p>また、長寿命化というのはこれまでは事後保全で壊れてから修繕あるいは更新していたものを、今後は維持管理の考え方を徹底してしっかり保全に取り組むということだと思います。建物についていえば大体30年で老朽化して建替えという考えが刷り込まれてしまっていますが、30年しかもたないわけではありません。でも30年で建替えると考えれば手入れをしないとします。</p>
委員	<p>本年度の計画ではどこまでのことを決めるのでしょうか、具体的にどのよ</p>

	うなことをするかまで盛り込むのでしょうか。
アドバイザー	<p>今年度の計画については、市としてインフラの今後の管理運営について、精神を目標高らかに掲げることを目的と考えています。その先に具体的にどうするかという話が個別の施設ごとに検討する必要があります。</p> <p>実際には目標を掲げるところまではいくが、次に具体的なことに取組む段階で腰砕けになる市町村が見受けられますので、市として計画を策定した後、目標達成にむけて取組を推し進めることが本当に必要なことだと思います。</p>
事務局	<p>インフラの維持管理・運営をこれから市としてどう取組んでいくかについて、今後人口が減っていく中では利用者も費用を負担する人も少なくなります。</p> <p>橋梁や上下水道のグラフを見ていただくと分かるように、現在のストック状況について確認いただくと、何十年前にストックされたものが今これだけ残っていることがわかると思います。これが今後どうなってくるかという、8ページのグラフでみていただくと、各年度平成27年度以降、平均すると1年あたり54億円という費用が維持管理・更新のために必要となってきます。</p> <p>この費用を市として負担することは非常に難しく、この問題に対して、計画の基本原則に基づき、財政負担の縮減・平準化を進めることが必要であり、この考え方をP.16の図にまとめています。</p> <p>現在の投資額20億円を維持するだけでは今後の将来更新費をまかなうことは非常に難しく、長寿命化や維持管理・運営の効率化、新設の抑制などによりコストの縮減を図り、現状保有している部分の維持管理運営と更新、真に必要なものの新設をバランスよく実施したいと考えております。</p> <p>この目標に基づき、計画策定後には専門部署による施設毎の長寿命化計画の策定等、コスト縮減に向けた細部を含む計画を策定したいと考えております。</p>
委員	<p>やはり、まちづくりの将来をどういう風に考えているかによるのではないのでしょうか。市として人口を増やすための努力をしていますが、そういった中で市街地を広げすぎると、逆に中心地の人口が減ってくるような状況になってしまうのではないのでしょうか。中心地にはインフラはそろっており、市の方向性として中心をうまく埋めていくことができれば、元々住んでいる人も空き地や空き家が埋まることはありがたいことだと思います。</p> <p>また、市の役割として、空いている土地の紹介など仲人役ができないのでしょうか。可能であれば、中心地の過疎化が止まることや新規のインフラ整備など量の増加を抑制することに繋がるのではないのでしょうか。</p> <p>もっと将来を見越したビジョンを作った上で取組みを進めるべきではないかと思います。</p> <p>また、障害者団体という立場からの意見としては、やはりインフラやお店等がそろって便利な場所に住めるほうが良いと考えています。</p>

アドバイザー	私は人口を増やすよりも人口密度を上げるというほうが正しいのではないかと考えています。日本全国の人口を増やすというのは無理があり、人口密度を上げる＝コンパクトシティという市としての方向性をキチンと出した上で、インフラの方向性についても連動させるといった検討をするべきだと思います。
委員	長寿命化などのハード面の取組以外で、ソフト面のインフラ対策でもっとできることがあるのではないのでしょうか。
アドバイザー	公園やスポーツ施設の指定管理者制度の導入は進んでいるようですが、維持管理・運営の効率化のためにできることは他にもいろいろとあると思います。 例えば橋守や道普請などの市民参加によるインフラの維持管理などの取組や、市道等の点検に参加いただくために、市のHPに投稿を受け付けるページを設けたり、市民との協働を進めることも必要かと有効かと思えます。
委員	市道の穴等による損害賠償はかなり件数が多いと思います。市民に協力いただければ、そういった事態をかなり防げるのではないのでしょうか。そういったソフト面での取り組みについても計画で示していただきたいと思えます。
アドバイザー	施設種別の方針について、農業集落排水の一部区域を公共下水道へ合流させるのはなぜでしょうか。公共下水道の長い管を通して範囲を広げていくよりも、個別の処理区を分散して配置するほうが、公共下水道を延長するコストを抑えられることや、処理区の人口が減っていった時にはその部分だけやめることができるなどメリットがあるかと思えます。
事務局	農業集落排水については、現在一部処理区の処理施設が老朽化しており、更新が今後必要になってくると考えられますが、処理施設の更新よりも、現在は処理区のそばまで公共下水道が延びてきていますので、そちらに転換する予定となっております。
アドバイザー	計画の進捗管理についてはどのように考えていますか。また、評価はどのように行う予定ですか。
事務局	毎年コスト状況や施設量等について調査を実施します。調査で得たデータを継続的に集計、比較していきたいと考えています。 計画を作ったあとの進捗管理をしっかりとしていきたいと考えています。
4. その他	
事務局	参考資料2については、第2回懇談会として実施した、ワークショップの検討結果のまとめとなっております。 また、今後は計画（案）のパブリックコメントの実施を予定しています。 最後に、次回懇談会の開催予定は3月頃の開催を予定しております。内容としてはパブリックコメントの結果についてご報告させていただきたいと考えております。

5. 閉 会	
今井部長	長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして本日の議題を全て終了させていただきます。